
新入生にすすめる 50冊の本



[表紙写真 ケヤキ (櫟、学名 : *Zelkova serrata*)]

大学のシンボル「櫟の葉」をモチーフに、福山大学のシンボルマークが制定されました。それぞれ形・色合いの異なる個性ある5枚の葉が融合する様が表現されています。独創的なバランスで構成された葉のレイアウトは、鳥の羽ばたきのようにも見え、若々しい躍動感を表現しています(「シンボルマークコンセプト」より)。

このようなシンボルマークコンセプトを1枚の写真として焼き付けてみました。

写真提供 : 西尾 廣昭 (薬学部・教授)

撮影場所 : 大学会館前・櫟並木

本と共生するために

私たちは日頃、日本語をかなり自由にしゃべっているのですが、ことばの大切さに気づきません。しかし、メールを打つ時とか、レポートを書くときに、ふと、もっと言葉が自由に使えたらなあ、と思うことがあるはずです。ジャック・ラカンというフランスの精神分析家は、「ことばだけが、世界の秩序の確立を可能にする」と、難しいことを言いましたが、要は、言葉が足りないと、社会の中の自分、人間関係における自分が、十分理解できないということです。使える語いは貧弱だが、すばらしい考え方をしている人間というのはいないはずですよ。

ですから、社会で生きていくためには、自分の言葉の力をみがく必要があります。その一番いい方法は、若い時に本を読むくせをつけることです。その一歩となる道しるべを皆さんの入学時に提供したいという思いから、福山大学附属図書館では、この冊子の刊行委員会を立ち上げ、学生、教職員が一丸となって、本書の実現にこぎつけました。皆さんが本と共生するための一助となれば幸いです。

『新入生にすすめる 50 冊の本』刊行委員会



人生の道しるべ

この本を笑いながら読めるようになってください 沖 俊任
『パパラギ』ツイアビ著 ……………1

IT革命のカリスマ的な先導者 清水厚實
『スティーブ・ジョブズは何を遺したのか』林信行 監修…………2

ただのソウではないんやソウ！ 夢をかなえる、そのために
ソウの神様の言うとおりに、試してみませんか 菅谷恵美
『夢をかなえるソウ』水野敬也 著 ……………3

弱者の、弱者による、弱者のためのフェミニズム 田中久男
『不惑のフェミニズム』上野千鶴子 著 ……………4

気持ちがなえたとき、つい下を向いてしまうとき・・・
あなたの心に「グッ」とくる一言がここにはある!! 中浦嘉子
『「グッ」とくる言葉』晴山陽一 著 ……………5

一度は読んでおきたいと感じる、人生の哲学書 中根優輝
『十二番目の天使』オグ・マンディーノ 著 ……………6

Your Partner for Success “成功へのパートナー”

～社会から求められる人材になるために～

知力、人間力、そして先見力

さあ、今日から始めてみませんか？ 中村 博
『18歳からのキャリアプランニング』大久保功[他]著…………7

生まれ変わらせてくれる薬はないが、
生まれ変わらせてくれる本はある 滑川 初
『7つの習慣』 スティーブン・R・コヴィー 著 ……………8

ダメじゃけど大丈夫。だってそばに誰かおるんじゃけ
渡邊未来
『ダメ人間 溜め息ばかりの青春記』 鈴木貴之 著 ……………9



学びの道しるべ

大学工学部を舞台にした推理小説 岡谷良二
『冷たい密室と博士たち』 森博嗣 著 ……………10

ほんの少しの勇気と知恵と行動力でできること 片桐重和
『コトラーが教えてくれたこと—女子大生バンドが
実践したマーケティング』 西内啓, 福吉潤 著 ……………11

たがいに刺激しあい、
切磋琢磨しながら自分を伸ばしていく 清水 光
『なぜ、国際教養大学で人材は育つのか』 中嶋嶺雄 著 ……12

文科系学生のためのレポートの書き方
事実の記述から意見の陳述へ 下岡輝也
『レポートの組み立て方』木下是雄 著 ……………13

教養とは、自己の無知を知り、知的渴望を生み出す薬
田中久男
『街場の現代思想』内田樹 著 ……………14

データを正確に理解して、正しく情報を読み取る
塚原一郎
『データの罠』田村秀 著 ……………15

学生生活に影を落とす身近な危険とその予防法、対処法を紹介!
学生生活をより充実させるための必携書! 中東 潤
『大学生がダマされる50の危険』
三菱総合研究所, 全国大学生生活協同組合連合会 著 ……16

英語の好きな人も嫌いな人も読んで納得!
大学での外国語学習のバイブル! 西田 正
『外国語学習の科学』白井恭弘 著 ……………17

全世界で250万冊を販売したビジネステキストの歴史的名著
ビジネス以外にも役立つその思考パターンに学生注目!
[ペンネーム]エドワード・ハリス
『ザ・ゴール—企業の究極の目的とは何か』
エリヤフ・ゴールドラット 著 ……………18

大学っていったい何を学ぶところなの? 日野
『総合スーパーの興亡』三品和広+三品ゼミ著 ……19

常識に捉われない、新しい考え方を見つけることができる
そんな本です 山本 覚
『隠された十字架～法隆寺論～』梅原猛著 ……20



こころの道しるべ

こんなにも感じやすいのか、心って! そして若いって!
青野篤子
『ライ麦畑でつかまえて』J.D.サリンジャー著 ……21

迎合する自分から戦う自分へ 保身の自分から信念の自分へ
人とのコミュニケーションのために 泉 潤慈
『言いたいことが言えない人』加藤諦三著 ……22

思い込みの危うさを学ぼう 占部逸正
『超常現象をなぜ信じるのか』菊池 聡著 ……23

いろんな視点に気付ける一冊 大谷恭子
『わたしと小鳥とすずと』金子みすゞ著 ……24

本当の「やさしさ」って、どんな「やさしさ」なんだろう？

塩見浩人

『やさしさの精神病理』大平健著 ……………25

“あたりまえ”ではない時間の不思議さにふれる本

田中 聡

『大人の時間はなぜ短いのか』…川誠著 ……………26

愛について考えてみませんか！

自分の生き方を考えてみませんか！ 鶴田泰人

『愛するということ』エーリッヒ・フロム著 ……………27

日本人であることの誇り 原口博行

『国家の品格』藤原正彦著 ……………28



科学の道しるべ

未来を想像してみませんか？ 稲野 碧

『フューチャー・イズ・ワイルド』

ドゥーガル・ディクソン, ジョン・アダムス著 ……………29

原発について事実を知りたい方におすすめの一冊 瓜倉真衣

『原発のウソ』小出裕章著 ……………30

人間×科学＝無限の可能性!

生死の境界線も、人間の努力と科学の進歩で動かせる?

川上さおり

『人間はどこまで耐えられるのか』フランセス・アッシュクロフト著

.....31

やりたいことをあきらめてしまいそうな時に 北口博隆

『フェルマーの最終定理』サイモン・シン著32

自然科学は小説より奇なり 伍賀正典

『空想自然科学入門』アイザック・アシモフ著33

科学の革命と進歩 [ペンネーム]SAKURA

『科学革命の構造』トーマス・クーン著34

生きているということはどういうこと?

詩的ムードが漂う科学ミステリー 佐藤理恵

『生物と無生物のあいだ』福岡伸一著35

この世界はたまらなく複雑で、そしてたまらなく魅力的

—そんな超一級科学者たちのドキュメント 藤居尚子

『複雑系』M・ミッチェル・ワールドロップ著36

あなたも天才?!? 松田文字

『天才はなぜ生まれるか』正高信男著37

これで数学的思考はバッチリ! 三川 敦
『数学的思考の技術』小島寛之 著38

「森は海の恋人」運動に取り組んできたカキじいさんの、
命と地球をはぐくむ「鉄」物語 山崎理央
『鉄は魔法つかい』畠山重篤 著39

バイオロギング

-動物たちの知られざる姿が明らかに 渡辺伸一
『ペンギンもクジラも秒速2メートルで泳ぐ』佐藤克文 著 ...40



文学の道しるべ

宇宙と死後の世界から「生きる」とは何かを考える 青木美保
『銀河鉄道之夜』宮沢賢治 著41

興味深い演奏論 音楽と文学に通底する表現論の世界 位藤邦生
『小澤征爾さんと、音楽について話をする』小澤征爾×村上春樹
.....42

生きること、自分の大切さに気付ける一冊 内海敬絵
『ハッピーバースデー』青木和雄、吉富多美 著43

もう一度、古典を 『日本語の古典』山口仲美 著	金尾義治 ……………44
いままで本が好きになれなかった人へ 『ぐうたら生活入門』遠藤周作 著	桑田成年 ……………45
ちょっとした空き時間にでも 『ランゲルハンス島の午後』村上春樹、安西水丸 著	高田朋孝 ………46
僕たちの両手はなにかを掴むためにある 『半分の月がのぼる空』橋本紡 著	竹中克文 ……………47
読まないままに死んでしまうにはあまりにも惜しい それに、面白い!	富士彰夫 ……………48
医療の現実—地方、老人、救急、末期等々の諸問題—	森田哲生
『神様のカルテ』『神様のカルテ2』夏川草介 著	……………49
海辺の街での退屈なひと夏の物語 『風の歌を聴け』村上春樹 著	山中友貴 ……………50

備考：教員・職員の所属は平成 24 年 3 月現在とし、
学生の場合は平成 24 年 4 月現在としました。



この本を笑いながら読めるようになってください
『パパラギ』

—はじめて文明を見た南海の酋長ツイアピの演説集』
[ツイアピ著]、岡崎照男 訳（ソフトバンク文庫）

自分が他の人と違っているかもしれない、
そう思うことは無いでしょうか。

あるいは、日本人は昔からそうなのかもしれ
ません。中国や西洋等から、日本人は新しい
ことを吸収し、そして、進歩してきた、と語ら
れます。中には、保守的とか、相手の本質が嫌
いとか、自分と自分の属する集団のプライドの
ためとか、そうでない人も多くいたでしょう。

では、自分は何を頼りに、どう考えるか……。

この本『パパラギ』の主人公、サモアの酋
長ツイアピがヨーロッパを回って感じたこと
を島民に話す、という物語です。

ツイアピは見てきたことを、島民に「たく
さんの島々のかしこい兄弟たちよ！」と語りま
す。だまされるな、自分の価値観をないがしろ
にするな、ものごとを正しく見つめろ、と。

この本は、自分にとって何が大事なことな
のかを考える一つの方法を暗示しているので
しょう。「本を読む」という、ここではツイア
ピの講演を聞くという、疑似体験を通して、自
分について考える頼りを増やしてください。

沖 俊任（電子・ロボット工学科）



IT革命のカリスマ的な先導者

『スティーブ・ジョブズは何を遺したのか —パソコンを生み、進化させ、葬った男』

林信行 監修（日経BP社）

2011年10月にすい臓ガンのために逝去したスティーブ・ジョブズに対し、アップルのCEOティム・クックは、「スティーブを知り、共に仕事をする事ができた私たちは、大切な友人と常にインスピレーションを与えてくれる師を失いました。．．． スティーブの精神は永遠に「Apple」の基礎であり続けます」と、追悼の言葉を贈りました。

1955年2月24日生まれのジョブズは、子供の頃から神童といわれ、その将来が嘱望されていたように、1977年1月にアップルコンピュータを設立し、同年6月にカラーディスプレイに対応したApple IIを発売、それで一気に彼の名は世界に知れ渡りました。

1986年1月にはジョージ・ルーカス監督からCG事業を買収し、1995年に公開した「トイ・ストーリー」が、世界中で大ヒット。その後2001年に iPod、2004年には iPod mini、2007年には iPhone、そして2010年には iPad と、立て続けに新製品を開発して、遂に「世界一の男」となりました。そして、アップルは時価総額で世界一の企業となったのです。

清水 厚實（理事長）



ただのゾウではないんやゾウ！

夢をかなえる、そのために

ゾウの神様の言うとおりに、試してみませんか

『夢をかなえるゾウ』

水野敬也 著（飛鳥新社）

「変わりたい」自分の情けなさに、やけ酒をして酔いつぶれた翌朝、突然、「覚悟、でけてるわな？」と目の前に現れた関西弁のあやしいゾウの化け物。夢をかなえるそのために、あなたなら変わる覚悟ができますか。

主人公は「人生を変えよう」と何をやっても、結局、三日坊主で終わってしまうサラリーマン。そこに現れた、“自称インドからきたゾウの神”ガネーシャは、自分の言うことを聞けば必ず成功すると言います。現実問題、なんとも胡散臭いお話ですが、主人公は自分を変えたい一心で、言われるがまま成功の契約を結びます。肝心のガネーシャは一日一つ誰でもできる簡単な課題を出すだけ、無理やり住みついてわがまま言いたい放題です。主人公は本当に成功できるのでしょうか。

この本、サラリーマン向けの自己啓発本だそうです。そういった印象は全く受けませんでした。二人のやり取りはまるで漫才のようで、何度も大笑いして、どんどん引き込まれていきました。そのうちに、あの胡散臭かったガネーシャが出した課題はとても大事なことのように心に響いてびっくり。私の前にも是非、現れて欲しいです。

菅谷 恵美（海洋生物科学科）



弱者の、弱者による、弱者のためのフェミニズム

『不惑のフェミニズム』

上野千鶴子 著（岩波現代文庫）

アメリカのベティ・フリーダンの『女らしさの神話』（現在は『新しい女性の創造』として出版）（1963年）、ケイト・ミレットの『性の政治学』（1970年）によって着実に進展したフェミニズム運動を、日本で引きつぎ、開拓し、先導してきたのが、「挑発にはのる、売られたケンカは買う、乗りかかった舟からは降りない」をモットーとする筋金入りの上野千鶴子です。彼女が明快に主張するように、彼女たちが目ざす最終目標は、「フェミニズムがいなくなる社会」、つまり、「弱者が弱者のまま尊重される社会」です。このフェミニズム運動のおかげで、セクシャル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント、パワー・ハラスメントという考え方が、いじめられた側の、被害をうけた側の人間が、ただ沈黙して耐えることをしいられてきたそれまでの風潮を、大きく変えてきました。「女性よ“おしん”はもうやめよう」というメッセージが、それを語っています。曾野綾子への反論は、ケンカのよいお手本です。

田中 久男（人間文化学科）



気持ちがなえたとき、
ついで下を向いてしまうとき・・・
あなたの心に「グッ」とくる一言がここにはある！！
『「グッ」とくる言葉—先人からの名言の贈り物』
晴山陽一 著（講談社）

昨年亡くなったアップルコンピュータの創業者であるスティーブ・ジョブズの名句から始まる本書は、落ち込んだ時や壁にぶつかった時に是非手にとってもらいたい本です。歴史上の偉人だけでなく、ジョニー・デップやイチローなど現在も各界の第一線で活躍している人達の言葉を目にすると、彼らの頭の中を少しだけ覗くことができたような気がします。どんな天才にも私達と同様に悩みはありますし、苦しい局面に見舞われることだってあります。ただ、天才が天才と呼ばれる所以は、どんな困難な状況でもその状況をポジティブに捉えることができるのです。良い日も悪い日も今日という日を大切に「今から一年もたてば、私の現在の悩みなどおおよそ下らないものに見えることだろう」という精神で楽しく充実した学生生活を送っていただきたいと思います。そんな人生の新しい一歩を踏み出すための背中を押してくれる一冊です。

中浦 嘉子（生命栄養科学科）



一度は読んでおきたいと感じる、人生の哲学書

『十二番目の天使』

オグ・マンディーノ 著（求龍堂）

この本を読んでいる中でとても印象に残る言葉があります。この本のタイトルでもある《十二番目の天使》であるティモシーの言葉です。

「絶対、絶対、絶対、絶対あきらめるな！」

「毎日、毎日、あらゆる面で、僕らはどんどん良くなってる！」

そんな彼の言葉は、仲間を励まし、自分自身もあきらめずに頑張っていく力となっていきます。そして、奥さんと息子を一度に亡くして、絶望の淵に立っていた主人公さえも元気づけていきます。

僕自身も中学校の時にこの本を読んで、『あきらめさえしなければ、夢はかなうんだ！』と、とても励まされました。

大学生となってそれぞれの夢に向かって歩んでいる今だからこそ読んでほしい、お勧めの一冊です。

中根 優輝 （メディア情報文化学科 2年）



Your Partner for Success “成功へのパートナー”

～社会から求められる人材になるために～

知力、人間力、そして先見力

さあ、今日から始めてみませんか？

『18歳からのキャリアプランニング

—これからの人生をどう企画するのか』

大久保功，石田坦，西田治子著（北大路書房）

この本では、就職だけでなく実り豊かな人生をどのように築くのか、キャリアデザイン（人生設計）について3人のキャリアカウンセラーが熱く語っています。対象は高校生、専門学校生、大学生とその御両親です。自己の長期的なキャリアを展望し、その初期の学生時代をどう充実させるのか、思考するヒントが沢山見つけられます。人生の方向を見定めるには、自ら今後の人生を企画する事です。その原点は自己理解です。自分はどんな人間なのかを知ることです。どんな学生生活が自己を深く理解し、自己の将来像を見通す事につながるのか道標が記されています。現在、日本は閉塞感が漂い、若者を含む多くの日本人が、国や未来への夢・希望を抱けない社会です。自分が主役の一度きりの貴重な人生を、どう歩む事が、自分・自国・世界を良い方向に導くのか、先ず気づいてください！

中村 博（経済学科）



生まれ変わらせてくれる薬はないが、
生まれ変わらせてくれる本はある

『7つの習慣』

スティーブン・R・コヴィー 著（キングベアー出版）

この本は成功するために7つの習慣が欠かせないと主張している。

7つの習慣とは

1. 主体性を発揮する（自己責任）
2. 目的を持つ（自ら立つ）
3. 重要事項を優先する
4. Win-Winを考える（人間関係）
5. 理解してから理解される（感情移入）
6. 相乗効果を発揮する（想像的な協力）
7. 刃を研ぐ（常時向上システム）

という内容です。

本書はボリュームが多いですが、是非最後まで読んで頂きたいです。ただ、読むだけでなく、実行すればきっと効果は出ると思います。

滑川 初（税務会計学科 平成 24 年 3 月卒業）



ダメじゃけど大丈夫
だってそばに誰かおるんじゃけ

『ダメ人間 溜め息ばかりの青春記』
鈴井貴之 著（MF 文庫）

『ダメ人間 溜め息ばかりの青春記』。
タイトルを見たら人はこう考えるだろう。「新入生にすすめる 50 冊に適していない」と。

返す言葉もありません。貴方の思っていることはほぼ間違いありません。

皆さんは「自分がダメだ」と思ったことありませんか？私自身よく思う人間です。そして溜め息をつく。

でもダメだということを認めていることは良いことなのではないでしょうか。

なぜなら、ダメである自分を見つけているからです。

この本のあとがきに「溜め息は出発進行の汽笛のように思えるかもしれない」とある。溜め息をついて周りを見渡せばきっとそばに誰かいる。

ダメな時に得た仲間はきっと力になってくれる。勇気の湧いてくる一冊です。

よっ、ダメ人間!!

渡邊 未来（中泉 未来）
（人間文化学科 平成 24 年 3 月卒業）



大学工学部を舞台にした推理小説

『冷たい密室と博士たち』

森博嗣著（講談社文庫）

大学は、入学して決められた勉強だけをしていても、よくわからない場所で終わります。世の中には、卒業しても大学がよくわからないままという人も多いでしょう。本作は、殺人事件の解明が主軸ですが、大学というのはどういう場所なのかを教えてくれる傑作です。

工学部の教員と学生が主人公となり、大学で起きた殺人事件を解明していきます。その中に、大学における人間関係、教員が日々どのように暮らしているか、学生と教員はどんな風に接するのか、また、研究や学問とはどういうものかなど、大学の色々な要素が詰め込まれています。大学に数年在籍した人であれば「あるある」と言うネタが多いと思います。著者が大学教員であったときに執筆したからこそその現実感でしょう。

小難しい古典を読むのも大切ですが、現役ばりばりの大学人と接することが大学を楽しむのに必要だと教えられます。

岡谷 良二（経済学科）



ほんの少しの勇氣と知恵と行動力でできること
『コトラーが教えてくれたこと
—女子大生バンドが実践したマーケティング』
西内啓，福吉潤著（ばる出版）

自分のライブで失敗（お客さんがいない）した翌日の授業をうわの空で聞くいまどきの新女子大生（絢）が、失敗した理由は「マーケティング不足」と指摘する大学講師（八千代）に「人を幸せにする」ためのマーケティングを学ぶお話です。

そこには、失敗した理由を知ろうと真剣に「マーケティング」について学ぼうとする絢とそれに情熱をもって答える八千代がいます。コンサートを失敗した理由を教えてくださいと尋ねた絢に対して八千代は、「あなたはいったい何がしたいのか？そしてなぜそれが重要なのか？」と問題を出します。さて、絢は、どのような答えを導き出すのでしょうか？

この本は、大学における「先生」と「学生」との在り方、教員の課題の出し方、それに対する学生の取り組み方について教えてくれています。大学で何を学ぶのか、学んだことは何にどのようにいかせばいいのかについて、何となくしか答えられない人はぜひ読んでみてください。

片桐 重和（情報工学科）



たがいに刺激しあい、
切磋琢磨しながら自分を伸ばしていく

『なぜ、国際教養大学で人材は育つのか』

中嶋嶺雄 著（祥伝社黄金文庫）

国際教養大学は、2004年春に秋田市郊外に開学された公立大学法人です。日本の地に在りながら、授業や成績評価は欧米大学となっています。現在進行しているグローバル化の時代にリーダーシップをとれる人材の育成について熱く語られています。この本を読んでショックを覚えました。厳密な成績評価、徹底した英語能力の育成、少人数教育、手厚い学習支援システム、海外留学制度など。厳しい学習環境で人材は育つと言われています。幅広い教養と総合的な英語力、そして異文化交流の中で生活できることが、グローバル化の時代を乗り切っていくために必要であると述べられています。福山大学で新たな大学生活のスタートを切られた皆さんにとって、一番大切なことは何か。そのヒントをこの本は教えてくれるのではないかと思います。皆さんのご健闘を祈っています。

清水 光（情報工学科）



文科系学生のためのレポートの書き方
事実の記述から意見の陳述へ

『レポートの組み立て方』
木下是雄 著（ちくま学芸文庫）

本書は文を作ることが苦手な学生がレポートを書くときの手引書であります。

レポートを書くために必要な注意事項、材料の集め方、構成の仕方、文章を書くときに必要なテクニックを丁寧に説明しています。話題の確定、主題文の書き方、参考文献を集める、アウトラインの作り方をレポートを書くときの同じ流れに沿って、少しずつ進んで読んでいくとレポートの組み立て方が自然と身に付いてきます。

正しい論理構成をするために、事実の記述と意見の記述の違いを詳しく述べており、卒業論文や修士論文で最も苦勞する、序論、特に考察を書く時にきっと役立つでしょう。

下岡 輝也

（人間科学研究科心理臨床学専攻 平成 24 年 3 月修了）



教養とは、自己の無知を知り、知的渴望を生み出す薬

『街場の現代思想』
内田樹著（文春文庫）

著者は、「《教養》というのは、《生》の知識や情報のことではない。そうではなくて、知識や情報を整序したり、統御したり、操作したりする《仕方》のことである」と、目からウロコのような考えを述べています。同じように、「図書館の利用のノウハウとは、ただ一つ、《私がまだ読んでことがない本について、それがどこにあるのか、何の役に立つのかを知っている》ということである」とも言っています。さらに、結婚という生活形態において、人間がきたえられるのは、「《不快な隣人》、すなわち《他者》と共生する能力である。おそらくはそれこそが根源的な意味において人間を人間たらしめている条件なのである」と、結婚にロマンチックな思いを寄せる人を目覚めさせるような、シビアな真実も示しています。このように、多彩なトピックについて、分かりやすく私たちの常識の落とし穴に気づかせながら、考えを深めていくための助走してくれる本です。

田中 久男（人間文化学科）



データを正確に理解して、
正しく情報を読み取る

『データの震』

田村秀著（集英社新書）

現在は文系学部でもレポートや論文で統計データを利用することが多いです。統計データを使うと、物事を客観的に検証することができ、説得力が増します。しかし、使い方や理解を間違えると、全体の結論までおかしくなり、非常に危険です。

本書では世論調査などを例に挙げ、その解釈をするとき、どのような点に注意をするべきか、説明をしています。これはそのまま、大学のレポートや卒業研究でアンケート調査をする場合や統計データを解釈する際の注意点にも当てはまります。どのような人にアンケートをするか、どのような聞き方をするかで結果は変わってきます。このことは、社会人でも理解していない場合が多いので、大学生の間に、よく考えてみてください。本書で基本的なことを理解した後、社会調査や統計学の専門的な本を読んでみて下さい。

塚原 一郎（経済学科）



学生生活に影を落とす身近な危険と

その予防法、対処法を紹介！

学生生活をより充実させるための必携書！

『大学生がダマされる 50 の危険』

三菱総合研究所，全国大学生生活協同組合連合会 著

（青春新書）

大学生活を有意義なものにするためには、私生活を充実させなければなりません。特に一人暮らしを始めた新入生にとっては各種契約など、慣れないことが多く発生します。困ったことに、この世の中にはそのような社会に対して不慣れな新入生を狙った悪質な業者が存在し、大きな被害が出ているのが実情です。では、この世の中には一体どのような危険が潜んでいるのでしょうか？その形態は悪質商法やインターネット上でのトラブルなど、実に様々です。『大学生がダマされる 50 の危険』では、悪質な勧誘をはじめ、アルコール中毒、インターネット上の危険、一人暮らしのトラブル、交通事故、ドラッグ、金銭トラブルなど、学生が巻き込まれやすい危険を紹介し、かつその予防法や対処法が分かりやすく解説されています。大学生活を有意義なものにするためには、まず私生活でトラブルに巻き込まれないようにしましょう。そのための一冊です！

中東 潤（機械システム工学科）



英語の好きな人も嫌いな人も読んで納得！
大学での外国語学習のバイブル！

『外国語学習の科学—第二言語習得論とは何か』
白井恭弘 著（岩波新書）

1808年イギリスの軍艦が長崎の出島に現われ鎖国政策を堅持していた江戸幕府に衝撃が走りました。いわゆるフェートン号事件です。日本人の英語学習はこの事件から始まりました。今から約200年前です。この本は英語学習のノウハウを扱った実用書ではありません。英語学習の基盤となる原理を第二言語習得の最近の理論から解明しています。母語の日本語が英語学習にどのように影響するのか（転移の問題）、なぜ子供はことばが習得できるのか（臨界期仮説）、どのような人が英語を身につけやすいのか（言語適性、動機づけ、性格などの個人差）、英語学習はどのようなメカニズムから成り立つのか、などについて、多くの研究事例を紹介しながら、具体的にやさしく述べています。本書は英語学習を理論的に考察する機会を与えてくれます。また、高校まで学習した英語のみならず大学に入学して初めて学ぶ外国語（ドイツ語、中国語、フランス語など）の学習にも大変参考になる本です。

西田 正（人間文化学科）



全世界で 250 万冊を販売した
ビジネステキストの歴史的名著
ビジネス以外にも役立つ
その思考パターンに学生注目！

『ザ・ゴール—企業の究極の目的とは何か』
エリヤフ・ゴールドラット 著（ダイヤモンド社）

福山大学学長室ブログでおなじみの人気ブロガー、
エドワード・ハリスです。新入生に勧める名作紹介と
いうことでハリスが何を勧めるのか全学中が注目して
いるとかいないとか…

ということで、ハリスがお勧めする名著はエリヤ
フ・ゴールドラット博士の名作『ザ・ゴール』。この本
はアメリカのさびれた町の傾きかけた工場のマネー
ジャーが、工場を立て直し、街に活気を取り戻しやがて
自分の生活を取り戻していくという物語。ただの小説
じゃないかという心配はノープロブレム。実は、この
本はその物語の中で企業経営に必要なエッセンスが紹
介されているのです。だから世界中のビジネススクー
ルの学生が一度は目にする名著と言えます。専門的に
は「ジャスト・イン・タイム」とか「サプライチェー
ンマネジメント」といった話なのですが予備知識は
全く不要！物語にどんどん引き込まれますよ。経済学、
経営学を身近に感じてもらえる歴史的な名作、是非、
手にとってみてくださいね。

[ペンネーム]エドワード・ハリス（税務会計学科）



大学っていったい何を学ぶところなの？

『総合スーパーの興亡』

三品和広 + 三品ゼミ 著（東洋経済新報社）

ご入学おめでとうございます。「大学って何を学ぶところなの？」と漠然とした期待や不安を抱いている人も多いことでしょう。そこで、大学での勉強や研究について具体的なイメージを与えてくれる一冊を紹介します。

福山大学経済学部には、経済学演習という科目があります。一人の教員のもとで少数の学生が学ぶもので、ゼミとも呼ばれます。この本の著者は他の大学のゼミの学生ですが、問いを立てて自分たちで答えを探求していく過程は、皆さんにも参考になるはずです。

表紙にあるように、ダイエー、イトーヨーカ堂、ジャスコが登場します。皆さんが生まれた頃、ダイエーは日本で一番大きな小売業の会社でしたが、後に破綻しました。一方で、他の二社は飛躍を遂げます。明暗はどこで分かれたのでしょうか。その問いに答えるべく、学生自身が様々な工夫を凝らしながら、店舗調査やインタビューなどを実施し、本としてまとめあげています。

勉強の大切さや研究の大変さ、面白さを感じ取ってください。

日野（税務会計学科）



常識に捉われない、
新しい考え方を見つけることができる
そんな本です

『隠された十字架～法隆寺論～』

梅原 猛 著（新潮社）

「法隆寺」と言えば、聖徳太子が仏教を広めるために建立した寺院で、五重の塔や金堂などは世界最古の木造建築物としてもよく知られています。ところが、著者の梅原 猛氏は法隆寺に隠された謎から全く違う結論を導いています。その結論は「法隆寺は聖徳太子の怨霊を封じるために建立された寺」です。この大胆な仮説を証明するために、冒頭から次々と証拠を突きつけています。寺院の中門は仏様の通り道と考えられていますが、法隆寺の中門には門（かんぬき）があり通れないようにしてあります。五重の塔の頂上部には法輪が取り付けられていますが、法輪には大きな鎌が掛けられています。法隆寺には普通の寺院には見られない異様な構造物がいくつもあります。蘇我氏系の聖徳太子一族は藤原氏により誅殺され、そのために聖徳太子の怨霊を恐れた藤原氏が太子一族の鎮魂のために法隆寺を建立したという結論は、常識と全く異なるにも関わらず覆すのが難しく感じます。

山本 寛（生物工学科）

こんなにも感じやすいのか、
心って！そして若いって！

『ライ麦畑でつかまえて』

J. D. サリンジャー 著、野崎孝 訳（白水Uブックス）

主人公はホールデンという高校生の男の子。

勉強がきらいで退学処分になり、故郷のニューヨークに帰るのだが、欺瞞に満ちた大人社会に彼の居場所はない。昔の先生やガールフレンドに会っても心は通じない。ただ彼の理解者は妹のフィービーだけ。こういった何気ない3日間の生活が一人称で描かれている。

本の題は奇妙だが、ホールデンが妹に語った「ライ麦のキャッチャーのようになりたい。崖に落ちていく子どもたちを救いたい」ということばからきている。私が高校生の時、衝撃を受けた小説だった。心理学を志すようになったのはこの本の影響があるかもしれないと、今改めて思う。

大人への反抗精神、ガラスのように壊れやすい繊細な心、いらだちや葛藤、これらは今の若者にも共通した心理であろう。世界中の若者に共感をもって受け入れられ、読み継がれているのも理解できる。40年前に私が読んだ本を皆さんにお勧めしたい。

青野 篤子（心理学科）

迎合する自分から戦う自分へ
保身の自分から信念の自分へ
人とのコミュニケーションのために

『言いたいことが言えない人

—「恥ずかしがり屋」の深層心理』

加藤諦三著（PHP新書）

コミュニケーションが円滑に行くにはどうしたらよいのか。

この本は、恥ずかしがり屋の人が、自分自身を理解するための本であり、恥ずかしがり屋でない人が恥ずかしがり屋の人を理解するための本でもある。

恥ずかしがり屋の人は人に近づくのが怖い、人とうまくコミュニケーションできないから人付き合いが苦になる、できれば人と接したくない、人恋しいところがあるが接することが現実になると人を避けてしまう。

これらの問題を解決する本である。

迎合する自分から戦う自分へ
保身の自分から 信念の自分へ

泉 潤慈（税務会計学科）



思い込みの危うさを学ぼう

『超常現象をなぜ信じるのか』

菊池 聡 著（講談社）

私たちはよくお正月におみくじを引きます。おみくじを引いて大吉が出ると嬉しく、凶がでるとなんとなく先行きに不安を感じます。そして、何か悪いことが起こると、おみくじが当たったのではと考えます。逆に、野球などでは、連勝中はそのツキを失わないために負けるまでユニフォームを洗わなかったりします。こんなことに根拠はあるのでしょうか。また、見慣れないものが空を飛んだのを見るとそれはすぐにUFOではないかと考え、写真の背景に何か模様が見えると人の霊のではないかと考えたりします。もうひとつ、怖い怖いと思って夜道を歩いていると、ススキが少し揺れただけでも幽霊だと思ってしまいます。こんなことはどうして起るのでしょうか。本書は、「超常現象」を題材にして、人の認識がしばしば現実には起こっていることとはかけ離れたものになる仕組みとその実生活での落とし穴を説き明かします。なにが間違いでなにが未知なのか不確実な現代を生きる私たちには欠かせない一冊といえます。

占部 逸正（情報工学科）



いろんな視点に気付ける一冊

『わたしと小鳥とすずと』

金子みすゞ 著（JULA 出版局）

この本にも掲載されている彼女の詩「こだ
までしょうか」は東日本大震災直後たびたび流
れた CM でご存知の方も多いかもかもしれません。

金子みすゞは明治 36 年（1908 年）山口県大
津郡仙崎村（現在の長門市仙崎）に生まれた童
謡詩人です。

20 歳の頃から書き始め 26 歳という若さで
この世を去りましたが、他にも多くの作品を残
しています。

どの作品からも優しいまなざしが感じら
れ、彼女の詩を初めて読む方におすすめの一冊
です。

大谷 恭子（職員）

本当の「やさしさ」って、
どんな「やさしさ」なんだろう？

『やさしさの精神病理』

大平健著（岩波新書）

「やさしさ」ってなんだろう？それは、時代や世代により捉え方が違います。あなたは友達が遊んでばかりで試験に落ちたとき、友達が不快になっても、はっきりと問題を指摘し、改めるよう助言しますか？相手の心に踏み込まずやさしくそっとしてあげますか？

著者によると、前者のやさしさは皆さんの親の世代、あるいは学校の先生たちの「Hotなやさしさ」で、後者は現代の多くの若者が好む「Warmなやさしさ」なのだそうです。若者にとって、「Hotなやさしさ」は、真剣なやさしさであるからこそ、「一番嫌いなやさしさ」になってしまうのだそうです（あなたはどうですか？）。

そんな若者が悩んだとき、どうするのでしょうか？「Hotなやさしさ」は嫌いだし、「Warmなやさしさ」では問題は解決しない！そこにもう一つ、「Coolなやさしさ」があるのだそうです。いろいろなやさしさをよく理解し、上手に使い分けましょう！

塩見 浩人（薬学部）

“あたりまえ”ではない時間の不思議さにふれる本
『大人の時間はなぜ短いのか』

一川 誠 著（集英社新書）

一見当たり前だという常識的なことが意外と自分勝手な思い込みにすぎないことがあります。日々の習慣や社会経験の中だけでなく、一見厳密に作られたかのように見える科学の世界にだってあります。本書が語るのはそうした事象の一つである、“年をとるほどに1年が早く過ぎ去る”というだれしもが実感する感覚を筆者の専門である心理学の立場から解き明かそうとしています。

よく知られた説明として「30歳の人々の1年は10歳の人々の1年の3分の1だから、その比で短く感じるのです」というものがあります。みなさんはこの説明で納得してしまいませんか……。筆者はこの説明は現在では“検討すべき仮説とは見なされていない”と一刀両断しています。真実は何か。是非本書を読んでみて下さい。時間というものの不思議さを知ることになるでしょう。

なお、本書では主題のテーマに付随して、生理学や心理学の最新の研究結果にも触れられており、興味の沸く一冊です。

田中 聡（工学部 電子・ロボット工学科）

愛について考えてみませんか！
自分の生き方を考えてみませんか！

『愛するということ』

エーリッヒ・フロム 著，鈴木晶 訳（紀伊国屋書店）

原著の題は *The Art of Loving* です。本書は「愛は技術である」という前提のもとに、「愛は技術か」「愛の理論」「愛と現代西洋社会におけるその崩壊」「愛の習練」の4つの章から成っています。

愛とは能動的な活動であり、受動的感情ではない。愛は与えることであり、もらうことではない。幼稚な愛は「愛されているから愛する」という原則にしたがい、成熟した愛は……。未成熟な愛は「あなたが必要だから、あなたを愛する」と言い、成熟した愛は……。また、愛する対象の種類によって、「兄弟愛」「母性愛」「異性愛」「自己愛」「神への愛」の5つを上げています。そのなかで、「自己愛」と「利己主義」や「非利己主義」との違いもはっきり述べています。著者は、「愛する」には、理論を学び、その習練に励むことが必要とっています。挑戦してみませんか！

鶴田 泰人（薬学部）

日本人であることの誇り

『国家の品格』

藤原正彦 著（新潮新書）

数年前のある新聞社の世論調査で、日本国民であることを誇りに思う人が、その10年前に比べてずっと増えていました。市場原理主義・グローバリズムに踊らされた我国に杞憂を抱き、改めて日本の「歴史・伝統・文化」、「国土や自然」さらには「国民性」についての思いが現れたのではないかと、本書の出版後に藤原氏は述べられています。

長い歴史を持つ日本は「情緒と形の文明」を国柄に有し、受け継がれる精神は美德を忠義に実践する「武士道」であることを忘れかけている人々が多いと、ある種の警鐘を投げかけておられます。

3・11の大震災から1年が経ちました。多くの国民が拭いきれない悲しみを背負いながら、経済活動は停滞し、政治が混迷している時に、日本国・日本人を見つめなおす一つのきっかけにと本書を推薦致します。

原口 博行（生物工学科）



未来を想像してみませんか？

『フューチャー・イズ・ワイルド』
ドゥーガル・ディクソン、ジョン・アダムス 著
土屋晶子 訳（ダイヤモンド社）

誰もが一度は図鑑などで古代や現代の生物学に触れたことがあることでしょう。しかし本書は過去でも現代でもなく、誰も知りえない未来の生物たちを、国際的な専門チームが生物学と進化論の基本的原則にのっとなって想像したとてもダイナミックかつ今まで見たこともないような生物史です。

「生物なんて勉強してないからわからない」という人も、過去の生命の歴史から詳しく説明してあって読みやすい内容になっており、イラストもコンピューターアニメーションによって想像を掻き立てるものとなっています。ぜひ手にとって読んでみてください！

稲野 碧（海洋生物科学科 2年）



原発について事実を知りたい方におすすめの一冊

『原発のウソ』

小出裕章 著（扶桑社新書）

著者は、かつては原子力に夢を持ち、研究をされていた方です。しかし、学ぶうちにその危険性を知り、40年前から原発反対を訴え続けてこられました。私は3.11以降、原子力について考えることが多くなりましたが、どのように原子力が危ないのか？、安全な被爆量はあるのか？、なぜ地震大国の日本に原発がたくさんできているのか？・・・と様々な疑問が沸いてきたため、それら疑問を解消すべく本書を手に取りました。上記の疑問についても詳しく分かりましたが、それ以外にも、原発を止めても電気は足りることや、地震の頻発する国で原発があるのは世界中のどこを探しても日本だけという事実を知り、今まで「原発は未来のエネルギーとして必要」と漠然と思っていた自分の考えが180度転換しました。原発のある国に住んでいる以上、これから原発の影響は少なからず受け続けることとなります。原発について知っておきたい方におすすめの一冊です。

瓜倉 真衣（生命栄養科学科）



人間×科学＝無限の可能性！
生死の境界線も、
人間の努力と科学の進歩で動かせる？

『人間はどこまで耐えられるのか』
フランセス・アッシュクロフト 著，矢羽野薫 訳
(河出書房新社)

「人間ってすごいんだあ」と思わせてくれる1冊です。

この本の原タイトルは *The science of survival* です。つまり厳しい条件のもとで生き残ることについて書かれた本です。私たちは極限状態に置かれた時にどうなるのかを生理学的に説明しながら、生き延びるための限界を探ります。例えば、氷の下に落ちてしまったら、空の上で飛行機の窓がなくなってしまうたら…。

なんだか難しそうな本だと思うかもしれませんが、しかし、まずは手にとって見てください。難しいより“面白い”本です。人間が科学と力を合わせて越えてきたいろいろな限界を知ることができます。この本を読むと、人間の無限の可能性に気付き、なんだか人間であることが誇らしくなるかもしれません。

川上 さおり (職員)

やりたいことをあきらめてしまいそうな時に

『フェルマーの最終定理』
サイモン・シン著（新潮文庫）

「私はこの命題の真に驚くべき証明を持っているが、余白が狭すぎるのでここに記すことはできない。」というメモが添えられた一見単純にも見える命題は、その後 300 年余りも幾多の数学者たちの挑戦を拒み続けました。この本は、この命題を証明したアンドリュー・ワイルズを中心に、証明に挑んだ数学者たちの軌跡を描いたノンフィクションです。こう紹介すると、「数学なんて難しそう」という声が聞こえてきそうですが、登場人物やエピソードがとても面白く、数学的概念がわからなくても一気に読んでしまえること請け合いです。そして、10 歳でこの問題と出会ったときの思いを 30 年後に実現したワイルズの、証明に至るまでの長い道のりと最後の瞬間に訪れた奇跡のようなひらめきを読んだとき、あきらめなければ夢は叶うという勇気がわいてくると思います。

北口 博隆（海洋生物科学科）



自然科学は小説より奇なり

『空想自然科学入門』

アイザック・アシモフ著，山高昭訳（ハヤカワ文庫）

『われはロボット（アイ，ロボット）』、『ミクロの決死圏』などのSF作品の原作者としても有名な20世紀後半を代表するSF作家、かつ科学者であるアイザック・アシモフの随筆集。科学者としてのアシモフ氏の膨大な知識を基に、生物学、化学、物理学、天文学の領域での身近なのに奥が深い不思議なこと（いわゆるセンス・オブ・ワンダー）を小説家の語り口で紹介してくれます。本書は17編の短編で構成されていて、各編は独立しているので好きなどころから読んでいくこともできます。

やや皮肉的などころもありますが、ユーモアとウィットに富んだ軽妙な文章で、堅苦しい話題も美味しく食べやすく料理されています。今日の教育では、専門分野という狭い領域に区画割りで分譲されてしまった、科学というみのり豊かな果樹園を気球にのったアシモフが空から案内してくれるかのような一冊。現代科学の夢と可能性と不思議を正しく味わい、楽しむためのガイドブックとして推薦します。

伍賀 正典（電子・ロボット工学科）



科学の革命と進歩

『科学革命の構造』

トーマス・クーン著，中山茂訳（みすず書房）

昨秋、ニュートリノは光よりも速いとの実験結果が世界中で大きく報道され、「パラダイムの崩壊か」などという言葉を目にした人も多いことでしょう。

本書の著者によると、パラダイムとは、「一般に認められた科学的業績で、一時期の間、専門家に対して問い方や答え方のモデルを与えるもの」です。パラダイム内でそれに応じた科学（通常科学）が進歩を続ける一方で、このパラダイムに適合しない変則的事象も現れてきます。その時のパラダイムを根底から覆すような変則的事象が登場してくると、そのもとで進行している科学は危機的状態に陥ります。こうして科学革命が起き、そのような変則的事象を説明できる新たな考え方もったパラダイムが次の時代を支配します。科学はこのようにして進歩していくと考えられています。

著者の考え方は自然科学のみならず社会科学の分野にも大きな影響を与えています。新入生の皆さんにとって本書の内容は決して簡単なものでないでしょうが、大学で学問を探究する中で本書は必ず役に立つ一冊となるでしょう。

[ペンネーム]SAKURA（経済学科）



生きているということはどういうこと？

詩的ムードが漂う科学ミステリー

『生物と無生物のあいだ』

福岡伸一 著（講談社現代新書）

「人は瞬時に、生物と無生物を見分けるけれど、それは生物の何を見ているのでしょうか。そもそも、生命とは何か、皆さんは定義できますか？」筆者の冒頭の問いに、ワクワクしながらこの科学ミステリーに引き込まれていきます。

買ってきたお肉はそのままなら腐っていくけど、そのお肉を美味しく調理して食べちゃった私の体はどうして腐らず成長（現在も成長中（笑））していくのでしょうか？この生き物の代謝（動的な流れ）の中に生命のヒントがあるようです。筆者は、生命観の変遷について、DNAをめぐる科学者達の裏舞台のヒューマンドラマとともに、彼らの発見や理論も丁寧に解説してくれます。その解説は、論理的でありながら詩的ムードが漂う筆者独特の切り口で“ブンシセイブツガク”という学問をグリーンと身近に感じさせてくれます。

刻々と壊れては再生される細胞、生命の適応能力は凄いと感じるとともに、筆者の語るこのミステリーの結末をぜひ読んでみてください。

佐藤 理恵（職員）

この世界はたまらなく複雑で、
そしてたまらなく魅力的
—そんな超一級科学者たちのドキュメント
『複雑系—生命現象から政治、
経済までを統合する知の革命』
M・ミッチェル・ワールドロップ 著、
田中三彦，遠山峻征 訳（新潮社）

人は単純さを求める生き物のようです。例えば何か問題が起きた時、「原因はこれ！」と明言されるとなんだか安心します。でも解決にはあまりつながらないことも…。無理に単純化を急ぐと、この世界が“無数の出来事どうしが複雑に影響を与えあう場”＝「複雑系」であるという当然のことが忘れられてしまいます（「複雑系」のより厳密な説明は本書に委ねます）。世界を「複雑系」として眺めると、出来事の因果関係を簡単に決められないばかりか、ときには小さな出来事の連鎖が全く予想外の結果を生むことさえあることが分かってきます（“蝶の羽ばたきが遠く離れた土地で竜巻を発生させる”という喩えが有名です）。この世界観は多分野の超一級科学者たちを次々に魅了しました。本書はそのドキュメントです。

大学生活で生じる出来事の大半は小さくありふれたものです。つまらない？でも「複雑系」で考えれば、その小さな出来事が卒業の頃にはびっくりする結果につながっているかも…。

藤居 尚子
（保健管理センター・心理カウンセラー／心理学科）



あなたも天才?!?
『天才はなぜ生まれるか』
正高信男 著（ちくま新書）

「天才？ 自分とは関係ない」と思っていますか。

最近の遺伝学によると、人間は誰しもが約 30 億個の塩基配列の文字リストをゲノムとして持って生まれ、この設計図にしたがって、環境要因と相互作用しながら人生を送る、しかもそのゲノムの個人間の差異は、わずかに 0.1% 程度。他方で、この 30 億文字の中に、ちよくちよく（0.1% 程度）混じっている異変や欠落の組み合わせが、心身のあまり好ましくない特性も生み出すようです。でもこれが他方で画一でない能力を覚醒させることもあり、普通の健常者とは違った天才を生むのかもしれないのです。トマス・エジソンは注意欠陥障害であったと推測されるし、クリスチャン・アンデルセンは文法障害に苦しんでいたらしく、ウォルト・ディズニーは多動児であったとのこと。劣っているところがあると、それを代償しようとして、別な能力がフル稼働するのでしょうか。これ以上は、もうこの本を読んでみるしかないですね。

松田 文子（学長）



これで数学的思考はバッチリ！

『数学的思考の技術』

小島寛之 著（ベスト新書）

これは数学の本？いいえ、著者の言葉を借りれば「数学っぽく、ものを見て、数学っぽく、ものを考える」ことが学べる本です。数学っぽく？もう少し詳しく言うと、「ものごとを論理的に考えたり、図形を利用して考えたり、単純化してシミュレーションしてみたり」して物事に取り組むことです。

この本では、まず始めに、年金問題、ボーナスの問題（固定給、終身雇用制度なども）などの「人生の問題」に数学的思考で取り組んでいます。それにつづき、「幸せな社会とは何か」や、村上春樹論まで取り組んでいます。

著者も述べているように、数学的思考は万能という訳ではなく、その思考で解決に至らない場合もあります。その思考により問題のからくりを見抜くことが出来る思考方法です。

みなさんもこの本を手にとって、数学的思考の技術を身につけてみませんか。

三川 敦（経済学科）



「森は海の恋人」運動に取り組んできた
カキじいさんの、命と地球をはぐくむ「鉄」物語

『鉄は魔法つかい』

畠山重篤 著（小学館）

児童向けの体裁ですが、すっかり夢中になって読みました。著者は宮城県気仙沼市でカキの養殖業を営むかたわら、漁民による広葉樹の植林活動を20年以上にわたって続けている方です。豊かな森から川をへて流れ込む土のなかの成分は、海の植物プランクトンを育て、海を豊かにする。そこで森と川と海をつなぐ「魔法つかい」が鉄分だということです。

ところで阪神・淡路大震災のとき大学生だった私は、神戸の小学校に避難所のボランティアとして滞在した経験があるのですが、そこで一緒にいたメンバーのひとりが、東北から来ていた著者の息子さんでした。そして今年の東日本大震災。三陸沿岸にある家業の養殖施設は大津波によって壊滅し、生きものの姿も消えてしまいました。しかしひと月ほどして著者は、変化を感じ取ります——。序文の「東北再生への希望」に胸が熱くなりました。

山崎 理央（心理学科）



バイオリギング

動物たちの知られざる姿が明らかに！

『ペンギンもクジラも秒速2メートルで泳ぐ
—ハイテク海洋動物学への招待』
佐藤克文 著（光文社新書）

本書は、私の専門分野でもある動物学の研究に関する入門書である。データロガーという小型の記録装置を動物に取り付け、その動物に自身の行動と周りの環境を記録させるバイオリギングという手法を使って、人間の眼の届かないところでの動物の生態を理解する研究を行う。

海洋動物に興味がある学生には、この本をぜひ薦めたい。著者が携わったさまざまな海洋動物に関する研究内容が紹介されている。「ペンギンもクジラも秒速2メートルで泳ぐ」というのは、そのひとつの発見であるが、その結論にたどりつくまでには、多くの研究者の地道な努力の積み重ねがあることを本書は教えてくれる。

動物学の研究とは、思い通りにいかないことがほとんどである。それを柔軟な発想でどう切り抜けて新しい成果へとつなげていくか、それを可能にできるのは若い世代の研究者である。本書をきっかけに、動物の生き方に興味を持ち、その発見に感動してくれる若者が増え、さらにこの分野が発展することを期待している。

渡辺 伸一（海洋生物科学科）



宇宙と死後の世界から「生きる」とは何かを考える

『銀河鉄道の夜』

宮沢賢治 著（ちくま文庫）

『銀河鉄道の夜』は、宮沢賢治が死の直前まで推敲し続け、ついに未完のまま残された物語です。物語の主人公ジョバンニは、親友カンパネルラの死の間際、「銀河鉄道」という「幻想第四次」の世界を走る汽車に同乗し、死に行く友を、それと知らずに見送ります。

賢治は、最愛の妹を亡くした直後、死について激しい疑問に取りつかれました。死後の世界とは、宇宙とは、生きるとは、など、我々が生きるこの世界を含む、より大きな世界全体について、科学と宗教との両方から追究していきました。

そして、そのような心の追究の跡を、賢治は常に言葉でスケッチしていました。この物語も『心象スケッチ集 春と修羅』から発想されており、単なる作り話ではありません。自らの心の現実をじっくり見つめ、そこから独自の生き方を見出そうとする賢治の姿勢は皆さんの力になると思います。

青木 美保（人間文化学科）



興味深い演奏論
音楽と文学に通底する表現論の世界

『小澤征爾さんと、音楽について話をする』

小澤征爾×村上春樹（新潮社）

この本は裏扉に「本書は、村上春樹氏の企画・構成による／小澤征爾氏へのインタビューを収めた書下ろし作品です。」とあるとおり、今日世界的な名声を得ている指揮者の小澤征爾と、ここ数年、毎回、ノーベル文学賞の受賞が話題になっている、小説家村上春樹の対談集です。コラボレーションと言ってもいい。グレン・グールドやバーンスタイン、カラヤンらが演奏したCDを、ふたりが聴きながら、主に村上が小澤の話を引き出してゆくというスタイルがとられています。充実した内容で、いろいろな視点から楽しむ事ができますが、特に作曲と演奏との関係が詳しく語られ、演奏論、表現論として秀逸です。文学を学んでいる私は、スコア（総譜）を読みこむことの意味、音楽のディレクション（方向性）についての話題、文学にしる音楽にしる、「自分が何をどういう風にやりたいのかを、はっきりと心に定める必要がある」という、ふたりの指摘などに、大きな刺激を得ました。

位藤 邦生（人間文化学科）



生きること、自分の大切さに気付ける一冊

『ハッピーバースデー』

青木和雄，吉富多美 著（金の星社）

主人公のあすかは、母の心無い一言から声が出せなくなります。あすかは、母の両親である祖父母のおかげで声を取り戻し、明るくなります。しかし、あすかに優しい祖父母も、母にとっては愛をくれない両親でした。誰にも愛されず、鎧を身に着けることで自分を守っていた母は、職場の年若い上司なつきのおかげで、徐々に自分と向き合うようになります。

愛とは何か、と考える母娘の再生の物語です。

内海 敬 絵（海洋生物科学科 3 年）



もう一度、古典を

『日本語の古典』

山口仲美 著（岩波新書）

「春はあけぼの。やうやうしろくなりゆく
山ぎは、すこしあかりて、紫だちたる雲のほそ
くたなびきたる。」高校時代に習った『枕草子』
の第一段は、色彩豊かな文章で始まります。作
者の清少納言の繊細さが際立つ一節です。さ
て、科学の進歩とともに、人生観や価値観は大
きく変化しました。でも人間の思考能力や感性
は、僅か千年ほどの歳月で変わるものでしょ
うか。そこで、もう一度、日本の古典を讀んで
みたくなりました。でも、その解説書は難しく
て退屈と思っていた矢先、本書に出会ったので
す。作者は日本語学者の山口仲美氏。奈良時
代の『古事記』や江戸時代の『おくのほそ道』
など、歴代の名作を取り上げては、日本語の感
性をもとにその面白さを解き明かしてくれま
す。目次 30 選の中には、乱世を生きた人々の物
語『平家物語』も易しく解説されており、次は
これも讀んでみたいと思わせてくれます。もう
一度、古典をとと思った私のお気に入りの一冊
となりました。

金尾 義治（薬学部）



いままで本が好きになれなかった人へ

『ぐうたら生活入門』

遠藤周作 著（角川文庫）

この本は遠藤周作こと、“狐狸庵（こりあん）先生”の体験談や、身近にある事を大げさに面白おかしく短くまとめたもので、一寸下品かな？とも思えるエッセイ集です。内容的には一寸古臭い感じもありますが、北杜夫氏とのケチケチ会話や、身近にいた献身的なメス猫の話、披露宴会場での人間の醜態の話などを抱腹絶倒の話術で記述してあります。一話読んだらきっとあなたも狐狸庵先生の虜になる事でしょう。これって本当に小説なの？といった疑問を投げかけられる一冊です。

この本にカバーを付けて電車で本を読んでいると、周囲の人は文学青年のように見えます。でも中身は……。

注意事項：決して電車の中では読まないでください。絶対に「怪しい人」と思われてしまいます。

貴方を文学の世界に導いてくれる一冊となるかもしれませんね。

桑田 成年（職員）



ちょっとした空き時間にでも
『ランゲルハンス島の午後』
村上春樹、安西水丸 著（新潮文庫）

この本は授業の五分前のような、とりたてて何かしようと思えないくらい短い時間に読んで欲しいです。同じ空間で読み続けるよりも、間隔をあけて読んだ方が楽しめるんじゃないかと思います。

『ランゲルハンス島の午後』の文章を書いた村上春樹は有名です。『ノルウェイの森』や、『1Q84』などのタイトルがすぐに頭に浮かんだ方もいると思います。そんな村上春樹なわけですが、エッセイはまだ読んだことがないという方がいるのではと思い紹介する本に決めました。

このエッセイでは村上春樹の日常の考え方や感じ方がユーモアたっぷりに書かれています。そしてひとつひとつのタイトルには安西水丸のポップな絵が添えられています。ゆるい文章にとっても合っていて、タイトルをひとつ読んだ後に眺めると無意識にじっと凝視してしまうかもしれません。

著書は、ふと頭に浮かんだ考えをそのまま文章にしたような本です。この本をきっかけに村上春樹と、彼の小説に興味を持っていただけたなら幸いです。

高田 朋孝（建築・建設学科2年）



僕たちの両手はなにかを掴むためにある

『半分の月がのぼる空』

橋本紡 著（メディアワークス）

不治の病に侵された少女と同じ病院に入院した少年との出会い、そしてそれを支える周りの人々を通して日常の中での“いつかは終わりの来る日常”と向き合う、恋愛小説です。先に待つものが過酷で悲しい運命だとしても、奇跡を許さない世界の中で、悩み苦しみ、人生を精一杯歩んでいこうという、ふたりの決意が身近に感じられ、物語を読んだ人はふたりを応援せずにはいられなくなります。派手さのない等身大の物語ですが、だからこそ何でもない日常がいかにか大切に、日常の生活の中であるからこそ得られる感動があることをこの本を読んで実感することができると思います。人は決して同じ場所にとどまれません。泣きながら、あるいは喚きながら、とにかく歩き続けるしかない。なにかを捨てて、別のなにかを選び取らなければならないときもある。この物語で人々が行ったのは、つまりそういうことなんだと思います。少なくとも私にとってこの作品は今までの人生でもそしてこれからの人生でも最高の一冊です。

竹中 克文（心理学科平成 23 年度研究生）



読まないままに死んでしまうにはあまりにも惜しい
それに、面白い！

『罪と罰』

ドストエフスキー 著（岩波文庫）

貧しい大学生のラスコーリニコフは、人間には多数の人を殺しても許されるナポレオンのような「特別の人」と歴史の材料に過ぎない「普通の人」があり、自分は「特別の人」だとの妄想に取りつかれ、金貸しの老婆を殺害する。しかしながら、罪の意識と予審判事の執拗な追及に神経をすり減らした「普通の人」ラスコーリニコフは耐え切れずに自首し、シベリア流刑となる。鬱々たる日を送っていた彼は、純粹無垢の娼婦ソーニャの無私の愛に、ある日喜びと悲しみの感情が湧き上がり、新しい人間として再生を感じる。

『罪と罰』は、人が規定した罪と神が定めた罪の問題、人間の強さと弱さ・優しさと嫌らしさ、極貧にある人間の悲しみ、魂の救済とは？等がある時は語りで、またある時は夢によって浮き彫りにしながら、古都ペテルブルグを舞台に、刑事コロンボのような犯人が分かっているミステリーの面白さで展開される。

同じ作家の『カラマーゾフの兄弟』とともに読まねば一生の損になる作品である。

富士 彰夫（国際経済学科）



『神様のカルテ』『神様のカルテ2』

夏川草介 著（小学館）

タレントの櫻井翔君が主演で映画化されたことでも有名になった本です。地域医療を担う病院勤務の主人公、一般内科医栗原一止（クリハラ イチト）の活躍ではなく、むしろtwitter、「つぶやき」を小説化した感じ。地方の医療の現実、医師不足（おそらくは薬剤師やその他の医療関係者も不足＝小説に記述はありませんが）という現状を正確にとらえ、その中で働く現状と私生活をうまく混和しているところが、小説をよりリアルな感じにしています。また、これまでの医療小説にありがちな重いストーリーのみならず、一止の喋り方の変人振り（笑）と一人一人がとても個性的な登場人物とうまく調和して、時にはコミカルな場面も多くあり、多くの人と人との関わりも面白いポイントの一つです。なお、「一止」は合わせると「正」になります。本もそれほど厚くなく、文字も大きめなので普段は本をあまり読まない人にもさらっと読んでもらえる作品だと思います。是非、お勧めします。

森田 哲生（薬学部）



海辺の街での退屈なひと夏の物語

『風の歌を聴け』

村上春樹著（講談社文庫）

主人公である「僕」が

不完全な文章で語る、

海辺の街での退屈なひと夏の物語。

山中 友貴（人間文化学科 3年）

推薦図書リスト

- 『愛するということ 新訳版』エーリッヒ・フロム [著]；鈴木晶訳（紀伊国屋書店，1991年）
- 『言いたいことが言えない人：「恥ずかしがり屋」の深層心理』加藤 諦三（PHP 研究所，2006年）
- 『小澤征爾さんと、音楽について話をする』小澤征爾，村上春樹（新潮社，2011年）
- 『大人の時間はなぜ短いのか』一川誠（集英社，2008年）
- 『外国語学習の科学：第二言語習得論とは何か』白井恭弘（岩波書店，2008年）
- 『科学革命の構造』トマス・クーン；中山茂訳（みすず書房，1971年）
- 『隠された十字架：法隆寺論』梅原猛（新潮社，1972年）
- 『風の歌を聴け』村上春樹（講談社，2004年）
- 『神様のかけ』夏川草介（小学館，2009年）
- 『神様のかけ 2』夏川草介（小学館，2010年）
- 『銀河鉄道の夜：風の又三郎；七弾きのゴッホほか』宮沢賢治（筑摩書房，1985年）
- 『空想自然科学入門』アイザック・アシモフ；小尾信弥，山高昭訳（早川書房，1978年）
- 『ぐうたら生活入門』遠藤周作（角川書店，1971年）
- 『「グッ」とくる言葉：先人からの名言の贈り物』暗山陽一（講談社，2011年）
- 『原発のウソ』小出裕章（扶桑社，2011年）
- 『国家の品格』藤原正彦（新潮社，2005年）
- 『コラーが教えてくれたこと：女子大生バンドが実践したマーケティング』西内啓，福吉潤（ばる出版，2010年）

- 『ガ・コール：企業の究極の目的とは何か』エリフ・M.コールトラット（ダイエント社，2001年）
- 『十二番目の天使』オグ・マンティン；坂本貢一訳（求龍堂，2001年）
- 『18歳からのキャリアプランニング：これからの人生をどう企画するのか』大久保功，石田垣，西田治子（北大路書房，2007年）
- 『数学的思考の技術』小島寛之（ベストセラーズ，2011年）
- 『スティーブ・ジョブズは何を遺したのか：パソコンを生み、進化させ、葬った男』林信行監修（日経BP社，2012年）
- 『生物と無生物のあいだ』福岡伸一（講談社，2007年）
- 『総合スーパーの興亡』三品和広+三品せみ（東洋経済新報社，2011年）
- 『大学生がダメされる50の危険』三菱総合研究所，全国大学生生活協同組合連合会（青春出版社，2011年）
- 『ダメ人間：溜め息ばかりの青春記』鈴木貴之（メイファクトリー，2012年）
- 『超常現象をなぜ信じるのか』菊池聡（講談社，1998年）
- 『罪と罰 上』トストエフスキー；江川卓訳（岩波書店，1999年）
- 『罪と罰 中』トストエフスキー；江川卓訳（岩波書店，1999年）
- 『罪と罰 下』トストエフスキー；江川卓訳（岩波書店，2000年）
- 『冷たい密室と博士たち』森博嗣（講談社，1999年）
- 『テークの罫』田村秀（集英社，2006年）
- 『鉄は魔法つかい』島山重篤；スキヤマカヨ絵（小学館，2011年）
- 『天才はなぜ生まれるか』正高信男（筑摩書房，2004年）
- 『なぜ、国際教養大学で人材は育つのか』中嶋嶺雄（祥伝社，2010年）
- 『7つの習慣』スティーブン・R.コウイー；ジェームズ・スキナー，川西茂訳（キングヘアー出版，2009年）
- 『日本語の古典』山口仲美（岩波書店，2011年）

『人間はどこまで耐えられるのか』フランス・アッシュクロフト；矢羽野薫訳（河出書房新社，2002年）

『ハッピー・ハースター』青木和雄，吉宮多美（金の星社，2005年）

『ハ・ハ・ラキ：はじめて文明を見た南海の酋長ウイビの演説集』[ツイビ述]；エーリッヒ・シスイルマン編著；岡崎照男訳（ソフト・オン・デマンド，2009年）

『半分の月がのぼる空』橋本紡（メテアワークス，2003年）

『フェルマーの最終定理』サイモン・シン；青木薫訳（新潮社，2006年）

『複雑系』M・ミッチェル・ワルト・ロップ；田中三彦，遠山峻征訳（新潮社，1996年）

『フューチャー・イズ・ワイルド』トニー・カール・テイタソン，ジョン・アダムス；土屋晶子訳（ガイモント社，2006年）

『不惑のフェミニズム』上野千鶴子（岩波書店，2011年）

『ペンギンもクジラも秒速2メートルで泳ぐ：ハイテク海洋動物学への招待』佐藤克文（光文社，2007年）

『街場の現代思想』内田樹（文藝春秋，2008年）

『やさしさの精神病理』大平健（岩波書店，1995年）

『夢をかなえるゾウ』水野敬也（飛鳥新社，2007年）

『ライ麦畑でつかまえて』J.D.サリンジャー；野崎孝訳（白水社，1984年）

『ランケルハンス島の午後』村上春樹，安西水丸（新潮社，1990年）

『レポートの組み立て方』木下是雄（筑摩書房，1994年）

『わたしと小鳥とすずと』金子みすゞ（JULA出版局，1984年）

新入生にすすめる 50 冊の本

2012 年 7 月 14 日発行

編集・発行

『新入生にすすめる 50 冊の本』刊行委員会

〒729-0292

広島県福山市学園町 1 番地三蔵

福山大学附属図書館

印刷 岡山県農協印刷株式会社



福山大学附属図書館

『新入生にすすめる 50 冊の本』刊行委員会